

(令和7年度)

◎実務経験のある教員による授業科目の単位数

学部名	学科名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数
		全学 共通 科目	学部 等共 通科 目	専門 科目	合計	
	幼児教育 学科			18	18	7

教授	准教授	講師	助教	計
大賀恵子	佐藤尚宏	秋山智子 山上幸子		4 名

◎実務経験のある教員による授業科目として計上した授業科目の一覧

<専門教育科目>

授業科目	必修	選択	計	担当教員
幼児理解及び保育相談		2		大賀恵子
保育・教職実践演習（幼稚園）		2		浦上博文 都田修兵 秋山智代
子ども家庭支援論		2		大賀恵子
乳児保育Ⅰ		2		山上幸子
乳児保育Ⅱ		1		山上幸子
保育実習指導Ⅰ		2		大賀恵子 山上幸子 吉田升
保育実習指導Ⅱ		1		大賀恵子 山上幸子
幼児と環境	1			秋山智代
「幼児と環境」の指導法	2			秋山智代
幼児と表現Ⅱ	1			佐藤尚宏
「幼児と表現Ⅱ」の指導法	1			佐藤尚宏
幼児と図画工作		1		佐藤尚宏
合計	5	13	18	

令和 7 年 度 教 育 計 画							
科目名	子ども家庭支援論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 子ども家庭支援の意義と役割を理解し保育者による子ども家庭支援の意義とその基本を学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。また、保育者としての価値観・人間関係力を養う。 以上の内容には、約 30 年間の教育現場における実践（保護者対応）をもとに作成した事例を活用し、グループで対応法を考え発表やロールプレイで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察する。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。 ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回課題プリントを実施し、こども家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。					
	予習・復	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。 予習、復習には各回 90 分程度の学習時間を確保すること。					
	テキスト	和田上貴昭・高玉和子（編著）他 『子ども家庭支援論（保育者を育てる）』一藝社、2020 年					
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 80 点であり、期末試験で測る。また 80 点は、以下に示した 4 つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。 ①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 評価は、課題・授業中に実施し提出する課題（20 点）、及び期末試験（80 点）により実施する。						
	汎用的学習成果 評価配分は 20 点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。						
注意事項	参考図書・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ 21 の技法』中央法規出版、2008 年						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション・子ども家庭支援の必要性、家庭の機能と役割> 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。さらに、家庭・家族の概念とその歴史を説明し、都市化・核家族化・少子化などの影響による現在の家庭の実態を把握したうえで家庭の機能と役割を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子どもに現れる様々な問題を解決するためには子どものみでなく家庭そのものも援助することの必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子ども家庭支援の課題は家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識をもつ。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認し、テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<子ども家庭支援の意義と社会状況> 1. 本時の目標 家族と子育てに関する近年の動向や実態を把握し、子ども家庭支援の意義を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、取り巻く社会状況の中で家庭がどのように機能していくべきかを考えられるようになる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：家庭・家族の概念を調べ、テキスト2章を熟読する。 ・復習事項：家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の意義と機能に関する課題を仕上げる。
3 回	<保育者による子ども家庭支援の目的と必要性> 1. 本時の目標 子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、事例についてグループで対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、各グループの対応法から求められる支援のあり方を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育者による子ども家族支援の目的と必要性を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育者の専門性とは何かを調べておく。テキスト3章を熟読する。 ・復習事項：保育者の専門性と子ども家庭支援の目的と必要性に関する課題を仕上げる。
4 回	<保育の専門性と子育て支援> 1. 本時の目標 保育の専門性について確認し、家庭支援の機能を活かした子どもの喜びにつながる対応について理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容の理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの育ちを確認し、保育者の専門性を活かした子どもへの対応を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。子どもの喜びの共有とは何かを考えておく。 ・復習事項：子どもの育ちの喜びの共有に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<家庭の状況に応じた支援> 1. 本時の目標 家庭の状況に応じた支援事例をもとに、保育者としての対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・ 資料を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 事例をもとにロールプレイをするなかで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第5章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・ 復習事項：事例に応じた支援法に関する課題を仕上げる。
6 回	<保護者及び地域の実践力向上に資する支援> 1. 本時の目標 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第6章を熟読する。子育て支援サービスについて調べておく。 ・ 復習事項：子育てを自ら実践する力の向上に資する支援に関して説明できるようにする。
7 回	<保育者に求められる基本的態度> 1. 本時の目標 保育者に求められる支援の展開過程、アセスメントのための具体的なツールを紹介したうえで、支援の基本的態度を理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保育者に求められる基本的態度を理解し、説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第7章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・ 復習事項：具体的な展開過程に関する課題を仕上げる。
8 回	<社会資源との連携・協力> 1. 本時の目標 地域の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 社会資源における子育て支援の役割と課題について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第8,9章を熟読する。最寄りの地域の子育て支援について調べておく。 ・ 復習事項：社会資源との連携・協力に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	＜子育て家庭に対する支援体制＞ 1. 本時の目標 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を確認し、保育者としてどのように対応するのが望ましいかを理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 社会資源の活用、調整、開発のための保育者としての対応を理解し、事例分析を通して対象の理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 8, 9 章を熟読する。社会資源の活用に関する事例を調べておく。 ・ 復習事項：子育て家庭に対する支援体制に関する課題を仕上げる。
10 回	＜子育て支援施策・次世代育成支援施策＞ 1. 本時の目標 子育てに対するさまざまな問題に国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。保育所における子育て支援の役割を確認し、支援方法や配慮点について理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 10 章を熟読する。子育て支援と保育者の役割について調べておく。 ・ 復習事項：国の対応、保育所の支援方法に関する課題を仕上げる。
11 回	＜さまざまな子育て家庭への支援内容＞ 1. 本時の目標 さまざまな子育て家庭支援の対象を確認し、それぞれの支援方法と内容を理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 子育て家庭支援の対象が分かり、それぞれの支援方法と内容が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 11 章を熟読する。子育て家庭支援について調べておく。 ・ 復習事項：子育て家庭支援の対象、それぞれの支援方法と内容に関する課題を仕上げる。
12 回	＜保育所等を利用する子ども家庭支援＞ 1. 本時の目標 保育所等を利用する子ども家庭支援の事例を取り上げ、保育所等と相談支援機能との関連や支援の留意点について解説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 児童福祉法（子ども権利条約など）・保育所保育指針（子育て支援）の内容を確認し、保育所の役割と理解・支援の留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 12 章を熟読する。児童福祉法・保育所保育指針を確認しておく。 ・ 復習事項：保育所等の支援方法と留意点、家庭支援への理解に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<要保護児童等及びその家庭に対する支援> 1. 本時の目標 児童虐待、ひとり家庭、障害をもつ子ども家庭への支援課題と対応を確認し、支援のあり方について解説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保育者は子ども家庭が抱える問題への対応と予防の現状を理解し、適する支援方法を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 13 章を熟読する。児童虐待に関する内容について調べておく。 ・ 復習事項：要保護児童等及びその家庭に対する支援に関する課題を仕上げる。
14 回	<地域の子育て家庭への支援> 1. 本時の目標 地域の子育て家庭への支援事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。また、保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 地域の子ども・子育て支援事業の内容を確認し、保育者の役割や支援者のあるべき姿を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。地域子育て家庭支援に関する取り組みを調べる。 ・ 復習事項：地域の子育て家庭支援に関する課題を仕上げる。
15 回	<子ども家庭支援に関する現状と今後の動向・総まとめ> 1. 本時の目標 子ども家庭支援について振り返り、子ども家庭支援における保育者の役割を確認する。 2. 本時の活動 ・ 本科目の教育目標に関して習得度合いを確認し、その内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・ 本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。 ・ 復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和7年度教育計画							
科目名	乳児保育Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山上 幸子
質問受付の方法(e-mail,yamagami:owc.ac.jp オフィスアワー等):B307研究室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標:本授業は、保育士歴（31年）主任歴（2年）園長歴（12年）の実務経験のある教員等による授業科目である。 保育所や乳児院で、乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を、具体的な事例を通して理解させる。 1. 「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。 2. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。 3. 家庭や地域との連携、協働という文脈において考える。 4. 乳児の保育環境についてどう捉え、どう整えたらよいかを考える。 5. 現場での具体的事例紹介や実践的な課題演習を通じて保育現場をリアルに理解し将来の実践に活かせる知識技能を身につけることを目指す。 学生の学習成果: ・専門的学習成果:将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・汎用的学習成果:人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となり						
	教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜、参考資料を配付する。 ・実際の写真や動画で乳児を身近に感じる。 ・ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。 ・随時、模擬保育室や人形を使用し実践保育を導入する。はじめの一步教室に参加し実際の赤ちゃんに触れたり見たりして観察する。				
学習評価の方法	予習・復習	1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各90分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。 3. 手遊びや、わらべうたを獲得していく。					
	テキスト	・加藤 敏子編著 富永 由佳:2019「乳児保育 一人一人を大切に」萌文書林 ・プリント					
注意事項	参考図書等: ・監修:公益財団法人 児童育成協会 編集:寺田清美 大方美香 塩谷 香 :2019「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 ・田中真介監修 乳児保育研究会編書:2009「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 <乳児保育の目的と役割> ・学習のポイント:乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育の必要性。さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について認識する。手遊びをする 出産直後の写真や動画を見る テキスト p.10～28 「乳児保育の意義」・「乳児保育の歴史と現状」 ・課題:「乳児保育の目的と役割」についてワークシートにポイントまとめる。 ・予習:「子どもを産み育てていくとしたら、どんな子育て支援が必要か？」考えてくる。
2 回	<乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題> ・学習のポイント:子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学ぶ。 テキスト p.28～39「乳児保育の歴史と現状」 手遊びをグループでする ・課題:グループで「子育て支援・待機児童・乳児院」について話し合い、ワークシートにまとめる。 ・復習:「乳児保育の目的と役割」について確認しておく。 ・予習:「生まれたばかりのあかちゃん」について、どんな能力があるか考えてくる。
3 回	<あかちゃんの能力について> ・学習のポイント:DVD視聴 「乳幼児の発達と保育 1」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく 実際にはどんな能力があるのか認識する。 実際に人形を抱いたり、おしめを交換したりして応答的なかわりをする。 ・課題:視聴後、「あかちゃんの能力」について学んだことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・復習: ワークシートについての確認。 ・予習:テキスト (1)「誕生～6か月未満」の発達の特性を読んでくる。
4 回	<誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:資料「誕生～6か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに、 1 か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 手遊びをグループでみんなの前でする。 テキスト p.40～58 第3章 1発達の特性 2(1)誕生～6か月未満 保育園の0歳児の部屋の環境を写真や動画で視聴する。 ・課題:ワークシート「誕生～6か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ:「乳児保育の実際 前半」を視聴し 0 歳児前半の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。m ・復習:「あかちゃんの能力」確認をする。 ・予習:テキスト (2)「6か月～1歳3か月未満」の発達の特性を読んでくる。
5 回	<6か月～1歳3か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:「6か月～1歳3か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する 保育園の1歳児の部屋の環境を写真や動画で見る テキスト p.58～65 「6 か月から 1 歳 3 か月未満」 はじめの一步教室に参加して気づきや発見をする。 ・課題:ワークシート「6か月～1歳3か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 はじめの一步教室で実際の赤ちゃんの様子を見たり触れたりして理解を深める。 ・復習:「誕生～6か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (3)「1 歳 3 か月～2 歳未満」の発達の特性を読んでくる。

6 回	<1歳3か月～2歳未満の発達と保育> ・学習のポイント:1歳3か月～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 テキスト p.66～69 「1歳3か月～2歳未満」 ・課題:ワークシート「1歳3か月～2歳未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ視聴:「遊びの中にみる1歳児」を視聴し1歳児の子どもの発達の様子を、映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「6か月～1歳3か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (4)「2歳～3歳未満」の発達の特性を読んでくる。
7 回	<2歳～3歳未満の発達と保育> ・学習のポイント:「2歳～3歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 テキスト p.70～74 「1歳3か月～2歳未満」 ・演習:ワークシート「2歳～3歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ・復習:「1歳3か月～2歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:乳児の玩具はどんな物があるか調べて、材料を集める。
8 回	<乳児期の発達の特性> 学習のポイント:乳児期の発達と特性について理解する。 テキスト p.40～49 「3歳未満児の発達と保育」発達の特性 「泣く子の見分け方」について・・・資料をもとに、泣くことの原因や気をつけることなど様々な事例を分析し、対応の仕方を理解する。 「はいはいの発達」について・・・資料をもとに、はいはいの意味や発達過程を理解し、乳児の接し方の力をつける。 ・「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてまとめる。ワークシート ・復習:「2歳～3歳未満」の子どもの発達と保育者の配慮・援助の確認。乳児の玩具集め。 ・予習:テキスト3「乳児期の生活」・4「1～2歳児の生活」の離乳食と食事を読んでくる。
9 回	<乳児の生活②(食事・睡眠)> ・学習のポイント:テキスト p.76～88 「乳児期の生活」、p.94～100「1～2歳児の生活」 「スプーンと箸について」の資料によって、基本的なスプーンや箸の持ち方を身につけ、さらに発達過程の経過についても理解を深める。また、食事のための環境づくりについて、食器の選び方や配膳方法を知り、理解する。 実際の茶碗や箸を観たり触ったりする。(わたぼうし)写真、動画を見る ・演習:ワークシート「スプーンや箸の持ち方、食器の選び方」について空白を記入し提出。 ・復習:「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてポイントを確認。 ・予習:「子どものトラブル」にはどんなことがあるか考えてくる。
10 回	<場面事例から学ぶ> ・学習のポイント:ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学び、さらにグループで話し合い、相手の意見や気づきを共有する。 ・課題:各グループでビデオ視聴後、場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。 ワークシート「かみつき・ひっかきの対応の仕方」について、事例をもとに分析し、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。「ひっかき・かみつきへの対応」の資料 実習時の自己紹介の仕方について話し合う。 ・復習:「食器の選び方」や、スプーン・箸の持ち方の発達過程について確認。 ・予習:乳児の玩具について考え、材料を集める。

11 回	< 保育の計画と記録 > ・学習のポイント: 乳児保育を行う上での計画の必要性, また、保育計画作成において保育者が行う援助や配慮の大切なポイントを学び、書き方のポイントを身につける。 テキスト p.152～175「保育の計画と記録」 ・課題: 「0～3 歳未満」それぞれの「生活と遊び」の指導案を作成する。 グループで年齢を決め、0 歳児、1 歳児、2 歳児それぞれの「ディリープログラム」をもとに生活と遊びの流れの場面の指導案を作成する。1歳児、2歳児の遊びを考える。 ・復習: 「トラブルの対応について」確認(被害者・加害者・保護者・園など各側に立って)。 ・予習: テキスト (3)排泄(4)着脱衣(5)清潔を」読み確認する。
12 回	< 排泄: 着脱衣・清潔 > 学習のポイント: 基本的な生活習慣は、人間が快適に生活するために欠かせないものであり、集団保育では家庭と連携して身につけられるよう援助していくことが大切である。保育者が乳幼児期それぞれの発達過程により、どう援助していくかを認識する。 テキスト p.88～94「乳児期の生活」・ p.100～109「1～2 歳児の生活」 (3)排泄(4)着脱衣(5) ・課題: グループで「生活場面における子どもの姿と保育者のかかわり」について話し合いまとめる。 ・復習: 0、1、2 歳児それぞれのディリープログラムや発達によって、援助の仕方や関わり方の違いについて確認する ・演習: 乳児の玩具作り 動画を見るガラガラ スードーム
13 回	< 乳児の玩具 ・ 遊び > ・学習のポイント: 乳児の玩具やあそびの種類を知り、その遊びの行為によって育つものは何かを理解する。さらに、乳児の遊びの意味について理解を深める。 テキスト p.110～126「乳児期のあそび」・ 「1～2 歳児のあそび」 ・課題: 手作り玩具を製作(1～2 個) ペットボトル等の空き容器を使ってフローティングボトル等手作りした玩具の「あそび・遊び方・育つもの」について項目ごとにまとめる。 またグループでそれぞれの玩具について発表し合い、どんな働き(育つもの)は何か考える。 ・演習: 乳児の手遊び・ふれあい遊び
14 回	< 健康, 安全管理 ・ 保育の環境 > ・学習のポイント: 子どもの健やかな発達のためには、環境が重要であることで知り起こりやすい事故や対処方法、また事故防止対策などについて理解する。 そして様々な事例を分析し、共通点や基本的な対応の仕方を身につける。 テキスト p.127～151 「健康、安全管理」・「保育の環境」 ・課題: グループで「起こりやすい事故への対処方法」について話し合いにまとめる。 ・予習: 乳児保育テキストを見て、今までに学んだ乳児保育の現状と背景、保育のニーズ保育者の役割について確認する。
15 回	< 乳児保育の今後の課題 ・ まとめ > ・学習のポイント: 近年、保育ニーズが複雑化しており、地域・他機関との連携・子育て支援などが必要とされている。その中で保育所の役割は大きく、保育者はより高い専門技術や資質が要求されているという意識をもつこと。 テキスト p.176～192「乳児保育の今後の課題」 ・課題: ～乳児保育で大切なこと～、また保育士の立ち位置について再確認する。 ・演習: 実習園では子どもの発達についてはどうだったか？ どんな玩具があったか、環境や子ども同士のかかわりはどうだったか話し合う。

注意事項	【参考図書】 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』文部科学省厚生労働省フレーベル館，2018 年 ・『子どもと環境―基本と実践事例―』田尻由美子・武藤隆編，同人書院，2011 年 ・『あそびから学びが生まれる動的環境デザイン』大豆生田啓友，学研，2020 年 ・『ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成』岡上尚子，ひかりのくに，2018 年 ・『学びを支える保育環境づくり』～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～高山静子，小学館，2022
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 本科目の授業計画，学習評価方法等について理解する。【 模擬保育室 】 ＜保育内容環境について＞ 幼児が取り巻く環境との関わりを話し合い、指導方法を考える。 ○活動内容：オリエンテーション（授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法） 演習問題①（テキスト p.9）を話し合う。 （模擬室の環境構成） ○学習成果：環境のとらえかたに関して幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の特性による実践レベルでの違いを考える。
2 回	＜園内の環境と保育＞ 園内の環境の実際を考える。。 ○活動内容：演習問題②（テキスト p.25）を話し合う。手袋シアターを作る。 ○学習成果：園内環境を子どもの発達に合わせてデザインする。 ○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ○復習事項：園内環境を考える。。手袋シアターを作る。
3 回	＜園庭の環境と保育＞ 園庭の環境を理解して実践的に遊びの環境を考える。 ○活動内容：演習問題③（テキスト p.41）を話し合う 。手袋シアターを作る。 ○学習成果：子どもが遊びたくなる環境を考える。 ○予習事項：テキストを読んでくる。。 ○復習事項：手袋シアターを作る。
4 回	＜自然環境と保育＞ 「幼児期の最後までに育ってほしい姿」を事例から見つける。 芋ほりの保育案を作成する。 ○活動内容：演習問題④（テキスト p.59）を作成する 。 手袋シアター発表 ○学習成果：自然を取り入れた園庭の環境を具体的に考える。 ○予習事項：子どもに体験させたい遊びを考える。 ○復習事項：芋ほりの指導略案を作成する。
5 回	＜社会環境と保育＞ 領域「環境」のねらいおよび内容をふまえて保育を構想する。 ○活動内容：演習問題⑤（テキスト p.75）を話し合う 。 ○学習成果：季節による自然や生活の変化を感じる体験ができる遊びを考える。 ○予習事項：自分が住んでいる地域にはどんな地域活動があるか調べる。 ○復習事項：芋掘りの準備をする。

6 回	<伝統遊びや伝承遊び> 【 模擬保育室 】 乳幼児が興味をもつ環境を考える。 ○活動内容：伝承遊びを経験する。 ○学習成果：伝承遊びを保育にいれる方法を学ぶ。 ○予習事項 いろいろなわらべうたを調べる。 ○復習事項 いろいろな保育案をまとめる。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<自然との関わり体験> 【岡短畑】 生物・自然との関わりの事象に対する興味関心・、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容：芋掘り、焼き芋を体験する。 ○学習成果：芋掘りの指導案の確認をする。焼き芋の方法を知る。 ○予習事項：焼き芋の方法を調べてくる。 ○復習事項：自分の考えた指導案の反省、感想をまとめる
8 回	<文字・数・図形への興味と保育内容「環境」> それぞれの年齢にあった文字・数・図形環境を考える。 ○活動内容：演習問題⑥（テキスト p. 91） ○学習成果：文字・数・図形の環境を考える。 ○予習事項：遊びができる環境を考える。 ○復習事項：遊びを体験して改良する点や工夫する点を考える。
9 回	<小学校教育との連携と保育内容「環境」> 小学校教育と保育との違いについて様々な点から確認する。 ○活動内容：演習問題⑦（テキスト p. 108） エプロンシアターを作る ○学習成果：アクティブラーニングの実践を学ぶ。 ○予習事項：テキストを読んでくる。。 ○復習事項：アクティブラーニングの考え方を確認する。
10 回	<子育て支援と保育内容「環境」> 現代社会において必要な子育て支援を考える。 ○活動内容：演習問題⑧（テキスト p. 120） エプロンシアターを作る。 ○学習成果：保護者が抱える子育てに関する不安について考える。 ○予習事項：子育て支援ついて調べてくる。 ○復習事項：エプロンシアターを作る。
11 回	<これまでの学びを振り返る> こどもを取り巻く様々な環境のなかで育ちを伸張するもの、阻害するもの考える。 ○活動内容：演習問題⑨（テキスト p 126） エプロンシアターを作る ○学習成果：子どもにとって環境の大切さを考える。 ○予習事項：実習体験から遊びをデザインする。 ○復習事項：エプロンシアターを作る

12 回	<保育内容環境の実践> 【 模擬保育室 】 乳幼児が興味・関心を抱ける環境を作る。 ○活動内容: エプロンシアターを発表する ○学習成果: エプロンシアターの演じ方を学ぶ ○予習事項: エプロンシアターの演じ方を練習する ○復習事項: 他の人の演じ方の方法を学びまとめる。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<わが国の文化や伝統に親しむ> 伝統を次の世代へとつないでいく体験を考える。自然に興味や関心をもつ。 ○活動内容: お正月行事を理解する。 門松を造る。 餅つきをする。 ○学習成果: 伝統行事に興味を持つ。 ○予習事項: お正月について調べる。 ○復習事項: 伝統行事を調べて まとめる。
14 回	<環境を通して行う教育> 理解する。 ○活動内容: (テキスト p. 170) を話し合う。 ○学習成果: 発達や学びの連続性を大切なことを理解する。 ○予習事項: 自分の保育経験から問題を考えて、解決する環境を考える。 ○復習事項: 小学校教育との違いをまとめる。
15 回	<まとめ➡人的環境としての保育者> 環境の構成は幼児教育の基本と考える。 保育者が保育をどのように保育を展開していこうかと構想し、環境の構成を考える。 ○活動内容 授業内容の振り返り 保育について話し合い ○学習成果 環境へのかかわり方について振り返る、 環境についてまとめる。 ○予習事項 今までの学習内容を振り返る。 ○復習事項 日常生活における活動に対する捉え方や支援方法について復習する。

令和7年度教育計画								
科目名	「幼児と表現Ⅱ」の指導法		授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤尚宏
質問受付：OH E棟105研究室（水・金の在室時）				e-mail：t_sato@owc.ac.jp				
教育目標と学生の学習成果	教育目標:活動のつくり方を学ぶ 幼児のより豊かな造形表現に必要な指導・援助の基礎知識と方法の習得を目指す。 1. 表現に誘い主体性を引き出す活動を「計画する力」の基礎知識と方法を学ぶ。 2. 活動を活性化し発展することもと「かかわる力」の基礎知識と方法を学ぶ 3. 活動が円滑に進むための素材・用具の「環境を設定する力」の基礎知識と方法を学ぶ。 学生の学習成果: 専門的学習成果:上記教育目標に掲げる3項目を習得する。 汎用的学習成果:①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導するのにふさわしい価値の基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。 【実務家教員としての本科目との関連】 ・現在こども園・保育園にて年間110日程の絵画指導を行っており、幼児の姿や対応について具体的な指導が可能。 ・過去に美術系進学予備校にて15年勤務経験があり、造形表現全般の指導が可能。							
	教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 全15回を通して以下の流れで進める。 ① 題材・指導の要点、環境構成の要点について教員が説明・実演する。 ② 模擬保育の練習を通して、授業の進め方や事前準備について体験的に学ぶ。 ③ 気付いた点を反映させた指導計画を立案する。 ④ 模擬保育を行う。					
学習評価の方法	予習・復習	★汚れてもいい服装、制作の邪魔にならない服装と髪型に留意すること★ 予習事項：事前指示に従い題材の下調べを行うこと。（30分程度） 復習事項：課題が完成しなかった場合は次回までに課題を完成させること。 作品写真、題材の特徴、気付き等をスケッチブックにまとめること。（1時間程度）						
	テキスト	無し						
注意事項	以下の3つの学習成果について、課題へ取り組む様子・模擬保育や指導案、及び授業最終回のレポートによって評価する。評価は100点満点とし、評価割合は以下の①～③90%、④10%とする。 ① 「計画する力」活動が豊かになる導入に効果的な「しかけ」を設定できる。 ② 「かかわる力」活動が豊かになる指導・援助に効果的な「やりとり」ができる。 ③ 「環境を設定する力」活動が円滑に進む素材・用具の「しこみ」ができる。 ④ より豊かな造形表現に必要な指導・援助の基礎知識と方法について要点を理解しまとめる事ができる。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	【オリエンテーション「造形表現活動のつくり方」 グループ分け】 ▶本時の目標:この科目の学修内容についての視点と期待される取り組み姿勢を理解する。 ▶本時の活動:講義により「造形表現のつくり方」に必要な基礎知識について理解する。 ▶本時の学習成果:造形表現の指導計画づくりに必要な視点と方法がわかる。 ▶予習と復習:授業内容について自分の考えをレポートにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバック:次回このレポートを使って振り返りを行う。確認をした後返却。
2 回	【活動づくりの基礎 1 にじのはし①不適切な活動事例】 ▶本時の目標:模擬保育体験を通し、不適切な活動を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:不適切な指導による模擬保育を体験し、やってはいけない活動を学習する。 ▶本時の学習成果:不適切な活動計画、かかわり方、環境構成が体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめること。自分なりの活動計画作成(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
3 回	【活動づくりの基礎 2 にじのはし②適切な活動事例】 ▶本時の目標:適切な模擬保育を通じ、適切な活動づくりを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:適切な模擬保育の体験と前回は比較し、適切な活動作りを学習する。 ▶本時の学習成果:活動にストーリーとファンタジーを使い、やりたい気持ちに誘う方法のがわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録として今回の模擬保育をシナリオにする。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
4 回	【活動にストーリーとファンタジーを③ カラスのパン屋さん(1)】 ▶本時の目標:模擬保育の準備・練習を通し、導入の流れとポイントを学習する。 ▶本時の活動:導入シナリオをまとめ、練習、環境構成を行う。 ▶本時の学習成果:導入を進めるために必要な資質・能力・技能について体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。次回の模擬保育のシナリオを作る。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
5 回	【活動にストーリーとファンタジーを④ カラスのパン屋さん(2)】 ▶本時の目標:前回の練習をふまえて、導入部分の模擬保育を実践する。 ▶本時の活動:指導案(シナリオ)を元に導入部分の模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:導入を進めるために必要な資質・能力・技能について見識が深まる。 ▶予習と復習:カラスのパン屋さんの導入シナリオを作成。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
6 回	【活動をあそびで広げる ① クレヨンのお散歩(1)】 ▶本時の目標:教材研究を通して導入の流れとポイントを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:グループごとに制作し、あそびを発展させる助言を相互にしあう。 ▶本時の学習成果:あそびをうながすために必要な「しかけ(助言)」について体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。次回の模擬保育のシナリオを作る。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
7 回	【活動をあそびで広げる ② クレヨンのお散歩(2)】 ▶本時の目標:前回の練習をふまえ、導入の模擬保育を習熟する。 ▶本時の活動:指導案(シナリオ)を元に模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:導入を進めるために必要な資質・能力・技能について見識が深まる。 ▶予習と復習:クレヨンのお散歩の指導案を作成。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	【活動をあそびで広げる ③ 紙コップであそぼう(1)】 ▶本時の目標:教材研究を通して導入の流れとポイントを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:グループごとに制作し、あそびを発展させる助言を相互にしあう。 ▶本時の学習成果:あそびをうながすために必要な「しかけ(助言)」について体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。次回の模擬保育のシナリオを作る。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
9 回	【活動をあそびで広げる ④ 紙コップであそぼう(2)】 ▶本時の目標:前回の練習をふまえ、導入の模擬保育を習熟する。 ▶本時の活動:指導案(シナリオ)を元に模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:あそびをうながすために必要な「しかけ(助言)」について体験的にわかる ▶予習と復習:紙コップであそぼうの指導案を作成し提出。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
10 回	【作品を生かす活動づくり ① 壁面構成とグループ制作(1)】 ▶本時の目標:壁面構成とグループ制作についてイメージできる。 ▶本時の活動:作例から概要を理解し、グループ毎にテーマ設定と準備を行う。 ▶本時の学習成果:壁面構成の具体例がわかり、そのための準備が体験的にわかる ▶予習と復習:壁面構成の背景を完成させる。指導案シナリオを作成する。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
11 回	【作品を生かす活動づくり ② 壁面構成とグループ制作(2)】 ▶本時の目標:壁面構成とグループ制作の模擬保育を行い習熟する。 ▶本時の活動:グループ毎に模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:壁面構成の活動の進め方が体験的にわかる ▶予習と復習:指導案を作成し提出。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
12 回	【最終模擬保育 自分で活動をつくろう①】 ▶本時の目標:自分なりの造形表現活動をつくりあげる。 ▶本時の活動:グループ毎に模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:より豊かな表現活動を自分たちなりに作り上げることができる。 ▶予習と復習:模擬保育での気づきを反映させて最終的な指導案を提出すること。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。
13 回	【最終模擬保育 自分で活動をつくろう②】 ▶本時の目標:自分なりの造形表現活動をつくりあげる。 ▶本時の活動:グループ毎に模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:より豊かな表現活動を自分たちなりに作り上げることができる。 ▶予習と復習:模擬保育での気づきを反映させて最終的な指導案を提出すること。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。
14 回	【最終模擬保育 自分で活動をつくろう③】 ▶本時の目標:自分なりの造形表現活動をつくりあげる。 ▶本時の活動:グループ毎に模擬保育を行う。 ▶本時の学習成果:より豊かな表現活動を自分たちなりに作り上げることができる。 ▶予習と復習:模擬保育での気づきを反映させて最終的な指導案を提出すること。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。
15 回	【まとめ:講義とふりかえり】 ▶本時の目標:造形表現活動の作り方について整理する。 ▶本時の活動:。自分模擬保育について評価し、改善案を作成 ▶本時の学習成果:より豊かな表現活動の計画ができる。 ▶予習と復習:模擬保育での気づきを反映させた最終的な指導シナリオを提出する。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。